

## 第 29 回 供用期間中検査検討会 議事録

1. 開催日時： 平成 21 年 3 月 25 日 (水) 13:00 ~ 16:15

2. 開催場所： 発電設備技術検査協会 溶接・非破壊検査センター

3. 参加者：(順不同, 敬称略)

- 出席者：石沢主査(東京電力), 野村副主査(関西電力), 笹原副主査(電中研), 安達(東芝), 大岡(日本溶接協会), 小田倉(日立 GE), 河野(JNES), 小武守(中国電力), 小林(東京電力), 柴山(三菱重工), 東海林(IHI), 杉江(原技協), 関(三菱重工), 中山(日本非破壊検査協会), 西田(GE 日立), 新田(富士電機システムズ), 原田(原子力エンジニアリング), 橋本(原子力安全・保安院), 米山(発電技検) (計 19 名)
- 代理出席者：境(非破壊検査・岩橋代理), 古川(発電技検・佐藤代理), 北條(日本原電・太田代理), 津野(北海道電力・笹田代理) (計 4 名)
- 欠席者：稲垣(中部電力), 米谷(日立 GE), 金井(Westinghouse Industry Products), 清水(東北電力), 中田(北陸電力), 枡(電源開発), 三好(四国電力), 松本(九州電力) (計 8 名)
- 常時参加者：島田(海上技術安全研究所), 寒川(JNES), 濱中(東京電力) (計 3 名)
- プレゼン実施者：矢本・中川(GEIT), 高田・山本(オリンパス), 館山・松尾(日立 E&S), 江原(Zetec), 山本(IHI), 木下(栄進化学), 高橋・村上(日本クラウドクレーマー) (計 11 名)
- 傍聴者：久米田・田中(健)・藤曲・勝又・高橋・田中(崇)(東京電力), 坂代(日本 ITeS), 満名(産報出版), 谷口(関西電力), 藤澤・河野(原子力安全・保安院) (計 11 名)
- 事務局：大東(日本電気協会) (計 1 名)

4. 配付資料

資料 29-1 供用期間中検査検討会 委員名簿

資料 29-2 第 28 回供用期間中検査検討会 議事録(案)

資料 29-3 「フェーズドアレイ超音波探傷システム」プレゼンテーション概要

参考資料 1 第 22 回構造分科会 議事録(案)

5. 議事

(1) 会議定足数の確認について

事務局より代理出席者 4 名の紹介があり, 主査により承認された。本日の出席委員は代理出席者を含めて 23 名であり, 規約上の決議の条件である「委員総数の 3 分の 2 以上の出席(21 名以上出席)」を満たしていることが報告された。また, 傍聴者の 11 名が紹介され承認された。

(2) 前回議事録(案)の承認

事務局より, 資料 29-2 に基づき, 前回議事録(案)が紹介され承認された。

(3) 第22回構造分科会議事録(案)の紹介

事務局より、参考資料1に基づき、第22回構造分科会議事録(案)が紹介された。

(4) フェーズドアレイUTプレゼンテーション

1) 概要

石沢主査より、資料29-3に基づき、プレゼンテーションの概要について次のような説明があった。原子力発電所用機器の供用期間中検査における欠陥検出に、フェーズドアレイ超音波探傷装置を適用する方向でJEAC4207-2008「超音波探傷試験規程」の改定を進めており、理解を深めるために一般的な配管の突合せ溶接継手部の試験体を使ったフェーズドアレイ探傷装置による欠陥検出のプレゼンテーションを装置メーカー殿及び代理店殿にお願いして開催することとなった。

2) プレゼンテーション協力会社殿

プレゼンテーションにご協力いただいたメーカー殿は次の通り。

- ・ オリンパス(株)
- ・ GEインスペクション・テクノロジーズ・ジャパン(株)
- ・ (株)日立エンジニアリング・アンド・サービス
- ・ 日本クラウトクレマー
- ・ ZETEC

3) プレゼンテーション方法(例)

(a) オーステナイト系ステンレス鋼配管突合せ溶接継手(ハズ)部に設けた模擬欠陥の検出

- ・ 模擬欠陥の位置 - 周方向及び軸方向(溶接中心からの距離)
- ・ 模擬欠陥の長さ - 指定した探傷範囲を探傷し、指示長さを測定
- ・ 出力形態 - 任意、但し欠陥位置及び長さに関する情報が含まれていること

(b) 模擬欠陥試験体

10B, 12Bオーステナイト系ステンレス鋼配管突合せ溶接継手瓦状試験体

(c) 検出方法

以下の2つのケースでの検出(1ケースのみでも可)

- ・ JEAC4207-2008の要求事項を満たす方法
- ・ 欠陥の位置、長さを定量的な情報で出力する、各社製品が有する機能を使った方法

4) 見学

参加者は5つのグループに分かれて、各メーカーのプレゼンテーションを見学した。

5) 質疑応答

質問は特に無かったが、参加者より、「このように各社の技術を一堂に見ることができるプレゼンテーションの機会は貴重で、安全、安心のためにより技術を普及させていくことが大切だと思う。」という感想が述べられた。

(5) その他

1) 次回検討会は、別途調整することとなった。

以上